



今年も残すところ、あとわずかとなりました。2025 年を振り返って、自分らしく輝く毎日をお過ごすことができたでしょうか。2学期は、文化祭での人権作文発表や人権委員会の展示など、人権に関する活動がたくさん行われました。活動を通して正しく学び、自分にできることは何かと考え、何かひとつでも行動することはできたでしょうか。2学期の学びを振り返りましょう。

① 文化祭 活動報告

11月7日(金)に文化祭が行われました。今年度は、全体会では1名の生徒が自分の思いを作文にして、堂々と発表してくれました。また『人権委員会コーナー』では、人権ポスターや人権標語、また人権クイズなど、人権に関する様々な作品を展示しました。今回は、夏に人権委員が参加した『四国中央市内県立高校人権委員交流会』を特集し、点字体験やユニバーサルデザインについて学んだことをまとめたり、クイズを作成したりしました。



【人権作文】

今年も自分の体験や想いを綴った作文がたくさんあり、大変勇気付けられました。文化祭で展示した作文も、たくさんの人が足をとめ、読んでくれていました。



全体会発表作文

『手話を通して学んだこと』
3年 佐伯春羽さん

【人権ポスター】

『四国中央市人権のつどい』
に出品した作品を紹介します。



2年 三好 魁皇さん

【人権標語】

文化祭で展示した土居高生が作った人権標語の中から、3つの作品が選ばれ、市の『人権のつどい』に展示されます。



『下を向かないで あなたが選んだ道が 正解だよ』

2年 三宅 珠里愛さん

『みんなちがう それがすてきな この世界』

3年 竹野 麗愛さん

『その言葉 棘とを感じる 人もいる』

3年 山口 柚香さん



3年 河村 紅愛さん



3年 近藤 誠人さん



② 校内人権・同和教育講演会

演題 『過去の悲しみは未来への GIFT に変わる』

講師 シンガーソングライター YOU 氏

シンガーソングライター SOLA 氏



SOLAさんは、小5の3学期から不登校になり、苦しい時期に父親から勧められたベースとBOØWYの布袋寅泰氏への憧れをきっかけに音楽を始めました。かっこいい演奏と共に、不登校という辛い過去があったからこそ音楽と出会い、仲間との絆や感動、将来への熱い想いを得ることができたことを伝えてくださいました。YOUさんは、生まれつき「口唇口蓋裂」という先天性の障がいを持って生まれてきたこと、また「在日韓国人」として生まれてきたその人生を通して感じてきたことを、講演と演奏によるミニライブで私たちに伝えてくださいました。YOUさんの温かくも熱い想いを、心と体で感じ取ることができた時間でした。

【生徒の感想】

- 自分の嫌いな部分や弱い部分を武器にできるのはとてもかっこいいと思いました。私も、一人でも勇気づけられるようなかっこいい人になりたいと思いました。
- 今日の講演で、周りにとらわれない生き方と自分を信じてあげることの大切さを学びました。YOUさんやSOLAさんがお話す姿や、楽しそうに歌って演奏している姿を見て、好きなことややりたいことで生きている人ってこんなにかっこよくて心が惹かれるものなんだと感じました。
- 人生の中で、辛い時期や悲しい時期があったけれど、その時間にも意味があって、まだまだ人生はこれからで、今生きていることがすごく偉いということがわかりました。何もせず夢を諦めるのではなく、何でもやってみて、あがいてみたいと思いました。
- 人は誰しも辛いことや悲しい過去があって、それでも時間は止まって共に悲しんでくれません。みんな様々な過去を持って今も生きていると思います。当たり前ではない命を大切にしながら、日々目標を持って過ごしたいと思います。そして、過去を乗り越えて未来につなげていきたいと思います。

..◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

③ 人権委員コーナー

【1学期号 人権クイズのこたえ】

- ① 肢体の不自由な人が車を運転するときにつけるマークは、②の「身体障害者標識(身体障害者マーク・四つ葉マーク)」です。

肢体不自由であることを理由に、免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、努力義務となっています。

危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。

②



- ② 「人権」とは、「②生まれながらに誰もがもつ権利」のことです。

自由に学ぶこと、自分の選んだ人と結婚すること、好きな服を着ること、好きな音楽を聴くこと、病気になったら医療を受けること。これらはすべて、私たちが持っている「人権」です。憲法で保障され、今の日本では、「あたりまえ」だと思われていますが、ずっと「あたりまえ」だったわけではありません。これらの「人権」を「あたりまえ」にしたのは、これらの「人権」がないために苦しんできた無数の人びとの願いと命をかけた努力なのです。